

構造特記仕様書

・適用は口内に■印又はレ印を記入

・特記なき事項は、(一社)公共建築協会[公共建築工事標準仕様書]、日本建築学会[鉄筋コンクリート造配筋指針]、日本建築学会[壁構造配筋指針]による

1. 建物概要

(1) 工事名称
(2) 工事場所
(3) 階数・規模
(4) 屋上付属物
(5) 工事種別
(6) 増築予定
(7) 特殊荷重
(8) 基礎形式
(9) 構造計算ルート
(10) その他

2. 使用構造材料

Table with 5 columns: 種類, 設計基準強度(N/mm2), スランプ, 備考, 使用区分. Includes concrete and steel reinforcement details.

軽量コンクリート比重 γ =
構造体強度補正值 (S) 普通ポルトランドセメント・高炉セメントA
打込みから材齢28日までの予想平均気温 (°C)

(2) コンクリートブロック
種類 A種 B種 C種
厚さ 100 120 150 190

Table for steel reinforcement (鉄筋) with columns for material, diameter, and usage.

Table for steel skeleton (鉄骨) with columns for material, usage, and notes.

(5) ボルト類 (特記なき高力ボルト・アンカーボルトは、S10T・SS400規格品とする)
高力ボルト
アンカーボルト
スタッドボルト
デッキプレート

3. 地業工事

(1) 地質調査資料
(2) 直接基礎
深さ GL- m
長期許容地耐力 kN/m2
地盤改良

(3) 杭基礎 別紙図面内特記による。

Table for pile foundation (杭基礎) with columns for pile type, material, and construction method.

Table for pile specifications (杭仕様) with columns for diameter, long-term support, and notes.

4. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート
(2) 鉄筋
(3) 型枠

Table for concrete curing (コンクリートの圧縮強度) showing strength over time and temperature.

注) 1. 片持ち梁、庇、スパン9.0m以上の梁下は、工事監理者の指示による。
注) 2. 大梁の支柱の盛り替えは行わない。また、その他の梁の場合も、盛り替えは原則として行わない。

5. 鉄骨工事

(1) 鉄骨の加工・製作は特記なきがざり下記による。
(2) 工事監理者の承諾を必要とするもの
(3) 工事監理者が行なう検査項目
(4) 溶接部の検査
(5) 防錆塗料

6. 設備関係

(1) 特記以外の梁貫通孔は原則として設けず。設ける場合は設計者の承諾を得ること。
(2) 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承諾を得ること。
(3) 床スラブ内に設備配管を埋め込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし、管の間隔を5cm以上とする。

7. その他

各試験及び検査は、事前に工事監理者に連絡すること。
各試験の供試体は、公的機関にて試験を行い、工事監理者に報告すること。